

教師説明型

児童生徒発表型



札幌市立幌西小学校
平 沼 啓

実践テーマ

場面絵を電子黒板に大きく映して道徳的価値を深める。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

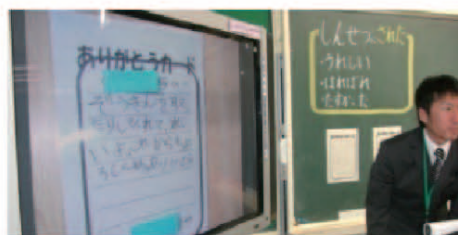
- 〈導入〉 日常の経験から、「親切にされたとき」「親切にしたとき」の具体的な場面を考える。そのとき、どんなことを感じたかなど、児童の内面を板書に位置付ける。
- 〈展開〉 ・資料「学きゅうえんのさつまいも」を読む。
・場面絵のプレゼンテーション資料を見ながら「みち子とよし子はどんなことを考えていたのか？」をワークシートに書き、自分の考えを発表する。
- 〈まとめ〉 ・個々の考えを板書し、「思いやり・親切」についての自覚を深める。
・「ありがとうカード」を実物投影機で写し、具体的な場面における「思いやり・親切」について考える。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	・日常の経験から、「親切にされたとき」「親切にしたとき」の具体的な場面を考える。 ⇒板書に、具体的な場面における、児童の感じたことを位置付ける。	
展開	・資料を読む。 ・資料の場面絵をプレゼンテーションソフトウェアで見ながら「みち子とよし子はどんなことを考えていたのか？」という問題意識を生む（静止画①）。 ・ワークシートに自分の考えを書き、発表する。 ⇒板書 ・親切にされたみち子はこのあとどうするかを考える。 ⇒「親切にする・される」は双方向であることに焦点化する。	●資料「道徳2年 みんなのしく 学きゅうえんのさつまいも」(東京書籍(株))の場面絵 使用ソフトウェア： PowerPoint® (Microsoft Corporation)
まとめ	・「ありがとうカード」を交換する。 ⇒資料で考えたことをカードの交換で実感する。 ・「ありがとうカード」(「ぞうきんを取ってくれて、うれしいよ」「けがをしたときに、しんぱいしてくれてありがとう」などという親切にされたことへの感謝の気持ちを記入)を実物投影機で拡大提示(静止画②)。 ⇒カードを全員で共有することで、「思いやり・親切」についての自覚を深める。	●「ありがとうカード」



児童の発表を板書



ありがとうカードを投影

児童の反応・効果

- ・「みち子」「よし子」の双方の立場からの場面絵を提示することで「二人はどんなことを考えていたのか？」という問題意識を生むことができた。
- ・「ありがとうカード」を実物投影機で拡大提示することで、児童は親切な行為の具体を考えることができ、「思いやり・親切」について道徳的価値の自覚が深まった。

活用のポイント

- ・「みち子」「よし子」の立場からの場面絵を提示することで、「親切にする側」「親切にされる側」双方の立場へ目を向けることができる(場面絵提示で問題意識を生む)。